



奄美大島(名瀬)

奄美大島(名瀬) ポートガイド

Amami Oshima Port Guide

シャトルバスの運行

本船～市内中心部～本船間
※時間については、未定です

帰船時間(自由行動の方々)

未定

観光情報は、こちら!

奄美大島観光物産協会
電話0997-57-6233

URL:<http://www.nonbiriamami.com>

※バス運行会社問い合わせ先
道の島交通
電話0997-52-0509

船舶代理店

名瀬港運
電話0997-52-2311



金作原原生林

奄美大島は鹿児島県本土から南西に約380km～560kmの海上に点在する奄美群島にあります。大小8つの有人島から成る奄美群島の中でも、最も大きな面積を有するのが奄美大島です。

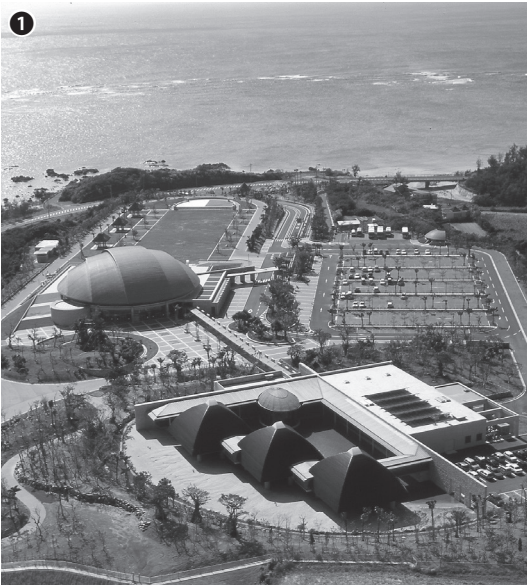
島の中南部の大半は山岳で占められ、亜熱帯多雨林が広がっており、世界の亜熱帯域の中でも限られた地域にしか成立しない、原生的な亜熱帯性多雨林に覆われています。島の北部は山の少ないなだらかな地形で、海岸線には美しい砂浜が続いています。その、サンゴ礁に縁取られた奄美大島の美しい砂浜には、毎年たくさんのウミガメが産卵に訪れています。

奄美群島が世界に誇る、自然環境・独自の野生生物生息環境を人類共通の宝物とすべく、いま地域が一丸となって、世界自然遺産への登録を目指しています。奄美大島では、「生きた化石」とも例えられる国指定特別天然記念物の「アマミノクロウサギ」をはじめ、ルリカケス、オース

トンオオアカゲラ、アマミイシカワガエルなど、学術的にも貴重な、多種多様な奄美独自の動植物が生息しています。今なお独自の生態系と太古の様相をとどめる貴重なこの島の自然を、未来に残す取り組みが続けられています。

また、黒潮の流れの中に位置するこの島では、古来より交通や交易の中継地として、南方と北方の人や文化が出合い交わり、豊かで独自の文化が培われてきました。1300年の歴史を有し、泥染めと精巧な緋技術に代表される「本場奄美大島紬」や「島唄」、そして奄美群島にのみ製造が許可されています「奄美黒糖焼酎」など、ここ奄美で育まれた伝統文化や特産品が今なお継承されています。

奄美大島の料理は沖縄の料理の影響を色濃く残していますが、そこに北からの南九州の食文化が入り込んでおり、奄美大島を代表する「鶏飯」をはじめ、多くの郷土料理を堪能できます。



① 奄美パーク

奄美群島の美しい自然、歴史、文化を写真や映像、展示で紹介するなど、最新の観光情報を発信する「奄美の郷」と、奄美を描き続けた画家・田中一村の作品を展示する「田中一村記念美術館」を擁する公園です。

島の暮らしぶりや習俗を知れば、奄美大島の訪問もいっそう楽しいものとなるはずです。展望台からは奄美大島を360度見わたせます。

② 金作原原生林

奄美大島の山々の中でも、天然の亜熱帯広葉樹が多数残っている原生林です。樹齢130年といわれるイタジイ、イジュ、タブの木が主で、巨大なヒカゲヘゴのポスターで一躍観光名所となりました。

老齢の樹林内には珍しいシダ類など奄

③ 大浜海浜公園

美固有の植物やわが国初発見の植物なども見られます。また、貴重な国指定天然記念物のルリカケス、アカヒゲ、オオストンオオアカゲラ、アマミノクロウサギなど固有種の鳥や動物が生息しています。新緑の季節の苔むした林道の美しさは格別で、霧が立ち込めると幻想的な森が浮かびあがるさまがご覧いただけます。

④ 本場奄美大島紬泥染公園

市街地に近く、キャンプ場、パースハウスなどが設備されており、夏場は地元の人でにぎわう海水浴場です。感動的な夕日が見られるスポットとしても有名です。

公園内には、癒しと健康を体験できる「タラソ奄美の竜宮」や、奄美のいろんな生物や昔ながらの伝統漁法（イザリ漁）などを展示している「奄美海洋展示館」があり、さまざまに楽しめます。

⑤ あやまる岬

奄美大島の伝統文化である大島紬は、絹糸を泥で染める手法を用いていますが、この施設では泥田を整備、保存しており、泥染めの工程を見学できます。オリジナルのTシャツ作りも体験できます。

⑥ 黒潮の森 マングローブパーク

足を延ばして



ことができます。また、沖縄の西表島に次いで、日本で2番目の大きさを誇るマングローブ原生林を探検できるカヌー体験は大人気です。「道の駅 奄美大島住用」としても登録され、奄美大島の交通、情報発信基地としても利用されています。

⑦ タラソ奄美の竜宮

海の恵みで美しく



目の前には、白い砂浜と珊瑚礁の海が広がり、潮騒が鮮明に響きます。奄美の恵まれた環境が心身にエネルギーを与え、確かなアンチエイジングを可能にします。あなたも「タラソ奄美の竜宮」で、至福の時間をお過ごしください。

⑧ タラソ奄美の竜宮

奄美の自然にこだわったタラソセラピーセンターです。タラソセラピーは、海水、海藻、潮風、気候、地形など、あらゆる海の資源を用いて身体機能を活性化させる健康療法です。

ふ頭所在地

〒894-0036 奄美市名瀬長浜町 32-14 長浜みなと公園(名瀬港観光船バス)
電話 0997-57-7332(大島支庁建設部建設課)

奄美大島 おすすめグルメガイド

シマ(集落)独自のシマジューリ(シマ料理)があり、シマで古くから食されてきた家庭料理が中心で、その食材の多くは、季節ごとにシマでとれるものを利用しています。気候や風土が本土とは異なるため、島独特の食材が使われたり、地元でしか味わえない一品も多く存在します。



鶏飯

かつて、薩摩藩の役人をもてなすために作られた料理。昔は炊き込みご飯でしたが、現在は熱いご飯の上に鶏ささみ、錦糸卵、ねぎ、パパイヤの漬物などをのせ、地鶏のスープをかけて食べるのが定番です。



黒糖焼酎

奄美群島だけに製造が認められており、口に含むとサトウキビから作った黒糖の甘い香りと米麹由来の風味が広がり、奄美の自然と情熱を感じる本格焼酎です。また、いろいろな料理との相性が良く、スッキリとした喉越しです。糖分をほとんど含んでおらず、低カロリーで、血液をサラサラにする効果もあるそうです。



あまみフルーツ

亜熱帯特有の温暖湿潤な気候のもと、タンカン、ポンカン、スモモの他、パッションフルーツやマンゴーといったトロピカルフルーツなど、一年中食べられるもの、その時期にしか食べられないものや、日本ではなかなか食べられない貴重なフルーツが多くあります。



名瀬港



名瀬市街地